

公共交通

私たちの暮らしを

支える「足」が

危機に直面しています

公共交通の利用者が減り、利用客の少ない路線が廃止、減便されるなど公共交通を取り巻く状況は厳しさを増しています。公共交通は決して永続的にあるものではありません。大切な移動手段を未来に残していくため、私たちが何をすべきか考えてみましょう。



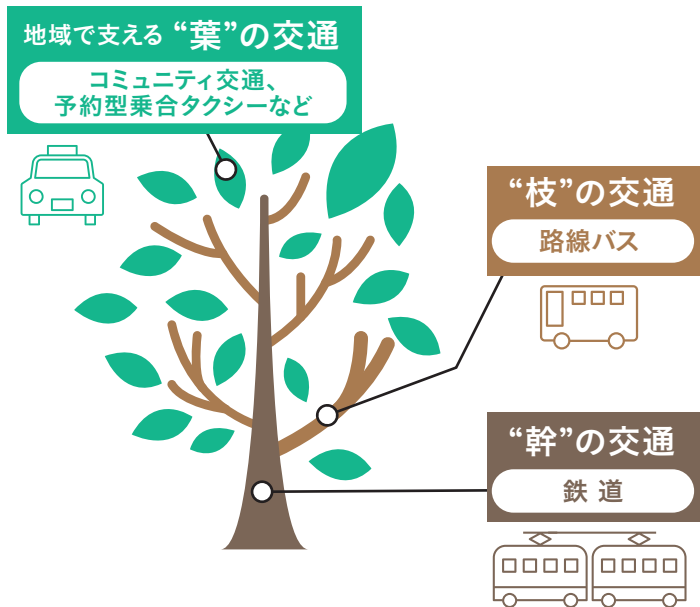
地域創生課
☎ 23 ◆ 6 4 8 6
FAX 23 ◆ 6 6 9 8

岡崎市の交通ネットワーク

市内には、鉄道3路線17駅、路線バス49路線（民間45路線、市コミュニティバス4路線）、タクシー6事業者など様々な交通手段があります。これらはそれぞれの特性を生かし、移動の距離、時間帯、目的、人数などに応じた役割分担をしています。

本市の交通ネットワークを木になぞらえると「幹」の交通は鉄道、「枝」の交通は路線バス、「葉」の交通はコミュニティ交通などとなります。

地域における移動手段の確保は重要な課題です。「葉」の交通は、地域住民の最初の移動となる交通手段として、地域住民の豊かな暮らしや地域の社会経済活動に不可欠なものです。



Interview



岡崎市地域公共交通会議 会長
松本 幸正さん

岡崎市は他の自治体に比べて路線バスなどの公共交通が多く残っている状態です。しかし、岡崎市に限ったことではなく、人口減少や生産年齢人口の減少に加えコロナ禍以降、在宅勤務やリモートワークなどが増え、人々の生活様式が変化した影響もあり、公共交通の利用は回復しきらず、大変厳しい状況です。ひと昔前は、地域の要望で公共交通を守るため、バスや鉄道を走らせることが行政の役割になっていた時期もありました。しかし、現在は法律も変わり、利用してもらった環境を作ることが大切になっています。公共交通を維持していくためには、自治体、交通事業者、市民の協力・協働体制が不可欠であり、それぞれが必要な役割を果たさなければなりません。全て交通事業者任せの時代でもなく、全て行政でやる時代でもありません。ここは事業者、ここは行政、ここは地域でお願いしますというように上手く役割分担を

未来へ続く 公共交通を育む

しないといけません。そのためには皆さんが同じテーマについて話し合いながら、何がやれるか、何ができないか、それを明確にしていくなきゃいけません。行政にとって一番大切なことは、まちの将来像を示し、未来の見えるまちづくりを進めていくことです。交通事業者は公共交通に関するノウハウを最も持っている企業ですから、行政と一緒に政策に基づき路線整備などの投資をしてもらいます。まちの魅力が高まることで自然と人々がまちに集まってきます。岡崎市にはQRUWA戦略などまちを元気にする仕組みがあるので、そういった取り組みが非常に大切です。今、東岡崎駅の整備も進んでいます。駅前が変われば当然バスの利用者も増えると思います。地球温暖化や二酸化炭素の排出などの地球環境を考えた時、環境に負荷が少ない公共交通を利用することが求められます。それは、公共交通を利用できる周辺で生活するという居住地の選択、あるいは移動手段の転換にもつながります。ただ環境負荷軽減のためだけに車から公共交通へ移動手段を変え続けることは非常に難しいものです。しかし、自身の健康につながることもできるのではないのでしょうか。公共交通を利用することは体力を使います。ちなみに私も日々運動を取り入れるため、仕事では車の利用を控えています。理想としては、誰もが公共交通を利用できる環境ができればと思います。公共交通を「守る」「支える」と言いますが、ずっと支え続けることはできません。守るとか支えるのではなく、公共交通を「育む」姿勢が大切です。多くの人が公共交通を利用することで、もっと良くなって、更に使いやすくなります。今は地域の皆さんが自分たちにとってふさわしい交通を実現できる時代です。公共交通を未来に残すためにも、私たち一人ひとりが公共交通の存続を自分事として捉えていただきたいと思います。

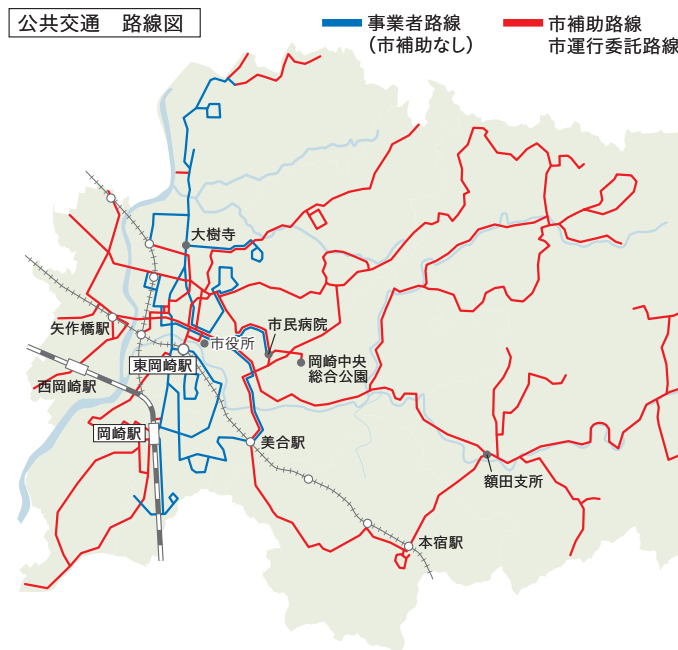
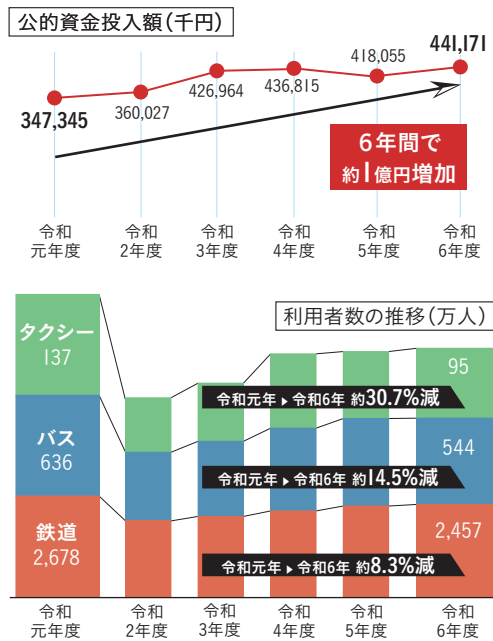
を利用しましょう

岡崎市の公共交通 現状と課題

地域交通は、地域住民の日常生活を支え、地域経済の活性化や社会とのつながりを維持する上で、地方創生の基盤とされています。しかし、本格的な人口減少時代を迎え、本市においても少子高齢化や生産年齢人口の減少、コロナ禍後の生活様式の変容により公共交通を利用する人は減っています。

公共交通の利用者数はコロナ禍前の状況まで回復しておらず、未だ厳しい状況が続いています。

市では、採算の取れないバス路線を維持するため、毎年多くの公的資金を投入しており、令和6年度の公的資金投入額は4億4千万円を超え、この6年間でおよそ1億円の増加となっています。



公共交通の利用者減は路線の縮小、運行本数の減少につながります。利便性の低下により更に利用者が減少するという連鎖的な悪循環に陥る恐れが生じます。また事業者にとっては運転手不足も大きな課題となっています。こういった状況が続けば、路線そのものの廃止につながります。実際、令和4年には矢作支所市民病院線、令和6年には大沼線（大樹寺経由）が廃止となりました。

おかざき スマートムーブアクション

(公共交通利用促進策)

官民連携の
取り組み

公共交通 ポスターコンクール

小中学生を対象に「電車・バス・タクシーの走る市内の風景」、「公共交通利用に関するマナー」をテーマにし、今年度ポスターコンクールを実施しました。



最優秀作品
六名小学校 6年 橋本 総一郎さん



最優秀作品
矢作中学校 1年 田口 陽菜さん

小中学生向けバスの乗り方教室

バス事業者の協力のもと、毎年、市内の小中学校でバスの乗り方教室を実施しています。今後、行動範囲が広がっていく小中学生を対象に移動手段としてバスを選択してもらえるよう取り組んでいます。参加した子どもたちの3割は路線バスに乗車した経験がなく、実際のバスに乗って体験した子どもたちからは「これからはたくさんバスに乗ってみたい」「楽しかった」などの感想が寄せられ、公共交通に興味をもつきっかけづくりにつながっています。



自動運転バスの実証実験

東海地方初となる、いすゞの大型車両を用いた市街地での走行実証を行います。一般試乗も行いますので、ぜひ体験してみてください。

一般試乗期間：11月30日(日)～12月20日(土)
(火曜日は運休)
運行ルート：名鉄東岡崎駅南口～JR岡崎駅東口
(約3.5km)
運行便数：10便/日
運賃：無料(前日までの事前予約制)
予約：11月17日(月)10時から(先着)



実証実験の詳細や
予約はこちらから



スマートムーブ強化月間

12月1日(月)～21日(日)

公共交通の利用促進及び脱炭素化推進を図るための取り組みです。年末で慌ただしく交通事故も多い時期です。公共交通を使ってゆとりある行動をしてみませんか。

スマートムーブ集中取組日
12月3日(水)・19日(金)・21日(日)
集中取組日に協力していただける
企業・団体・市民を募集！

効果検証を行うため、集中取組日のスマートムーブ(通勤、通学、買い物などに公共交通を利用)に協力していただける企業などを募集します。詳しくは、電話(☎23・6486)または市ホームページで。



岡崎市 公共交通マップ

市内の鉄道・路線バス及びタクシーなどの情報をまとめた「岡崎市公共交通マップ」を配布しています。

詳しくは、
市ホーム
ページで。



地域公共交通会議で
取り組んでいます

本市における地域公共交通計画の策定や実施及び評価に係る事項などを協議するため、学識経験者、公共交通事業者、市民、関係行政機関のかたを委員とする法定協議会として「岡崎市地域公共交通会議」を設置しています。

地域創生の基盤である地域交通の厳しい状況を踏まえ、市や交通事業者、地域の多様な関係者の連携・協働を通じ、公共交通の再デザインを推進するため現在、令和9年度から始まる新たな「岡崎市地域公共交通計画」の策定に向け取り組んでいます。

鉄道

市内を走る鉄道はJR東海道線、愛知環状鉄道、名鉄名古屋本線があります。にぎわいのある都市拠点を進めるため東岡崎駅、岡崎駅の再整備を進めるとともに、鉄道駅のバリアフリー化も推進しています。



名鉄東岡崎駅



JR岡崎駅

交通事業者の
取り組み

バス

人手不足解消に向けて 外国人バス運転士の育成「岡崎モデル」

市内を走る民間の路線バスは、名鉄バス43路線、名鉄東部交通2路線がありますが、バス路線減少の一因として、運転手のなり手不足が全国各地で取り上げられています。「岡崎モデル」とは、公共交通の確保・維持を見据えた人材確保を目的に岡崎市と名鉄バスが連携し、外国人運転士の育成支援体制を構築する取り組みで、これにより就業の支援、定着・定住を促進します。

「岡崎モデル」採用第1号の運転士の鈴木健次さんはブラジル出身。日本語学校で日本語学習を修了し、名鉄バス株式会社に入社。大型自動車二種免許の取得や社内の新任運転士研修を経て7月から乗務を開始しました。



「安全運転に務め、お客様を
無事目的地までお届けします」

Comment



公共交通は、地域の「足」であり、市民生活を支える大切なインフラです。「岡崎モデル」は、公共交通を未来につなぐための大切な一歩です。私たちは新しい仲間と共に、これからも岡崎の街を走り続けます。

名鉄バス 岡崎営業所 所長 木全 啓雅さん

人にやさしい 「ノンステップバス」

バリアフリー対応車両であるノンステップバス。市内の路線バスにおける導入率は7割以上となっています。また車椅子での乗車に対応するためスロープも設置しています。



利用者の声

大学には電車とバスを乗り継いで通学しています。乗車時間を利用して課題演習など有効活用できます。また、友達と買い物や食事に行く時も安全な電車やバスを移動手段としています。渋滞時の遅延にしても、バスロケーションシステム[※]で確認しながら安心して利用でき大変便利です。

岡崎女子大学子ども教育学部子ども教育学科 早川 仁菜さん

※バスの現在位置や遅れ時間などの運行状況を携帯電話やスマートフォン、パソコンから閲覧できるサービスです。

タクシー

市内には6社のタクシー会社があり、東岡崎駅、岡崎駅などの鉄道駅及び交通結節点[※]にタクシーの待機所があります。タクシーは、他の公共交通が運行していない時間帯や自宅、目的地までの移動など即時対応可能な移動手段としての役割を担っています。

※複数の交通手段が接続し乗り換えが行われる場所

